

上気道のどこかに微生物（ウイルス、細菌 など）の感染がおきて、症状をきたす疾患群です。症状としてはくしゃみ、鼻汁、鼻づまり、咽頭痛（のどの痛み）、嚔声（しわがれた声）などがあります。風邪（急性上気道炎）が最も多く、安静にしていれば治ることも多いですが、急性喉頭蓋炎などの呼吸苦をきたす病気もあり注意が必要です。また、稀に肺炎なども併発することがあり場合によっては詳細な検査が必要です。

大事なこと

- ✓ 気道閉塞をきたす（息を吸う時にヒューヒュー音がする）疾患は緊急で治療をする必要がある。
- ✓ 細菌感染症には抗菌薬治療が効果あり。
- ✓ ウイルス感染症に対する治療の基本は対症療法（症状をとる治療）。抗菌薬治療は効果がない。（ウイルスの種類によっては抗ウイルス薬を用いる）。
- ✓ ウイルスは多領域に感染し多症状を呈する。
- ✓ 細菌は原則として一つの細菌が単一臓器に感染し症状を呈する。

・考えられる疾患（上気道感染症に属する疾患）とその治療

- ① **かぜ症候群（急性上気道炎）**：最もよくみられる呼吸器疾患で、原因のほとんどはウイルス。
治療：対症療法（症状をとる治療）。数日で自然治癒する。
- ② **副鼻腔炎**：鼻腔に細い穴でつながる副鼻腔に炎症をきたした疾患。炎症が続くと蓄膿、鼻茸になる。
治療：細菌性副鼻腔炎に対しては抗菌薬投与を行う。細菌性でも抗菌薬なしで軽快することもある。
- ③ **急性咽頭炎**：咽頭におこる感染症。ウイルス、細菌、真菌による感染がある。
治療：A群β溶血連鎖球菌感染症の場合には少なくとも10日間の抗菌薬投与が必要。
- ④ **急性扁桃炎**：口蓋扁桃におこる感染症。急性咽頭炎に含まれる。ウイルス、細菌による感染がある。
治療：細菌感染時は抗菌薬投与。扁桃周囲膿瘍や扁桃炎を繰り返さず場合は、扁桃摘出術を考慮する。
- ⑤ **急性喉頭蓋炎**：小児に多いが成人にもおきる喉頭蓋の急性炎症。窒息する危険性があるので緊急治療が必要。乳幼児期にワクチン接種（インフルエンザ菌b型:ヒブ ワクチン）をしていれば感染はまれ。
治療：入院で抗菌薬投与。緊急で気道確保が必要なこともある（気管挿管が困難な場合は気管切開）。
- ⑥ **クループ症候群**：3歳以下の乳幼児に好発。様々な原因で声門周囲が腫脹し、呼吸苦がでる。
治療：基本的には対症療法（症状をとる治療）で軽快する。呼吸苦が強い場合は入院加療が必要。
- ⑦ **インフルエンザ感染症**：インフルエンザウイルス感染症。冬～春に流行する。抗原検査（感染後24時間以内では偽陰性の可能性あり）で診断する。
治療：対症療法（解熱薬はアセトアミノフェン。小児ではロキソニン等でインフルエンザ脳症を発症することがある）。発症48時間以内に使用する場合は抗インフルエンザウイルス薬が効果あり。

・気を付けておいてほしいこと

高齢、呼吸器疾患既往、抗癌剤治療中などの免疫力が落ちている方は重症化する可能性もあります。いつもの風邪と違う、呼吸苦がある、よくわからないけど熱がある、などの場合はご相談下さい。